

## 事業所訪問

# こんにちはは健保組合です！ 『安原運輸株』

## の巻

自然のサイクルでは、今年ももうすぐ梅雨の季節に入ろうかという六月五日、事業所訪問の一八回目としてお邪魔することになったのは、八千代市に所在する安原運輸株式会社でした。

同社は、首都圏を輪のように囲む国道一六号線沿いに位置し、後の取材でお聞きしたのですが、平成八年四月には東葉高速鉄道が開通予定で、村上駅が目と鼻の先にあり、駅を囲むようにいろいろな施設の建設が進んでいるとのことでした。八千代市は、京成電鉄を中心に発展してきたようですが、この鉄道の開通により、開発の拠点が移行するように思われます。こうしたことにより安原運輸は、将来、八千代新都心(造語です)のほぼ中心に位置することになるのは確実だと思われまます。

### 公的費用の負担増より 行政側のリストラの 必要性を力説

このように同社を取り巻く地域的環境は極めて順調といったわけですが、本題のソフトの面について、いよいよ取材が始まりました。

ご紹介が遅れましたが、本取材には、健康管理事業等推進委員会・指導宣伝部会から、株式会社習志野トラックセンターの川原田委員にご多忙にもかかわらずご同席いただき、貴重なお話をちょうだいしましたことを申し添えます。

さて、取材には私たちの組合の議員をされている安原義孝社長がお付き合いました。

恒例により、事務局からの組合の現況報告で談話が始まりました。

安原社長は、企業経営のうえで

税金・社会保険料等の公的費用負担の増加を心配しておられ、今後ますます伸展する高齢化等に伴い、「これはある程度やむを得ないものであるが、支出の軽減はどの経営者も考えること。健康保険であれば適正な医療のための医療機関に対する強力な監視機関の構築、被保険者等加入者への積極的啓蒙」等を訴えられ、行政に対しても「無駄な経費の削減等を図り、リストラに力を注ぐよう」力説されました。

「企業も努力をして利潤を生み出しているのだから、当然、行政も国民の負担増が政策のファーストチョイスではないことを認識して取り組むべきだ」とこの話題を締めくくられました。

### 顧客の信用を高め、 希望をもち、安全第一で 働くことが会社の基本

次に、話題は安原運輸の歴史について移行しました。同社の歴史は、さかのぼること大正十四年、伊川屋商店として創業・発足したそうですが、安原運輸株式会社が誕生したのは昭和三十七年とのこと。その後さまざま部門を創設し、今や『安原グループ』として、運輸、土木工事、タクシー、整



安原社長(左)と、川原田委員(習志野トラックセンター)

た。永年勤続される社員の方々が大勢在籍し、親子で勤務されている方もいらっしゃる。これらに共鳴されていることなのでしょう。

### 一日一個のレモンを 二〇年間毎日 食へ続けるのが健康法

安原社長は「私には、休日はない」とおっしゃいました。そんな激務に耐えるには、「何か健康法でも？」とお聞きすると、レモンを毎日一つ必ず食べることを二〇年間続けていら

っしゃるとのこと。これについて、「病気がちな女の子に、あるお坊さんが嫌いなものは何かと尋ねたところ、酸っぱいものが嫌いと答えたのでレモンを食するよう説いて聞かせ、この病弱な子がなんと八〇歳まで病気が知らずだった」というエピソードまで披露してくださいました。私たちも良い話を聞くとすぐ実行しますが、ですが、どれも三日坊主となってしまいます。簡単なことでも続けることが大切で大変なこと、社長は続けることによって身体にも心にも喝け入れ続けていらつしやるとお見受けしたのですが……。

こうして楽しく過ごさせていたただいた時間にピリオドを打つこととなりましたが、安原社長には、酷使した身体のメンテナンスをこまめにされ(時には休暇もよいかと思います)が……、ますますのご活躍を祈念いたします。

取材にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

ところで、私たちは季節の言葉に線引きされて生活する習慣がついてはいませんか？ たとえば、『衣替え』。気温に応じて服装を替えるので



開発が進む会社周辺を熱心に説明する安原社長(右)

はなく、過去の慣習としてそうしているのかもしれませんが、『梅雨入り宣言』も同様。いやな季節が始まったとあちらこちらで話題になり雨対策を講じます。そして『梅雨明け宣言』を受けて、待ちに待ったサマーシーズン堪能する気分になり替わるの

です。そういう意味では、厳密な『梅雨入り宣言』がなくなつたのは何となく寂しい気はしますが、皆さまはいかがでしょう？ むしろこのほうが今ふうなのかもしれません。いずれにしても体調を崩さずに今年の夏をお過ごしください。